

マネージメント情報 2026 年 08 月 ～マダニ採取実施しました～

櫻山真千子

6 月にエランコさんと放牧場でマダニ採取をおこないました。今回の目的は、おおよそのマダニの生息密度と、採取されるマダニの種類（マダニ属かチマダニ属か）の確認を行うことです。これにより、マダニ駆除に有効な対策を考えていきます。

【マダニ？チマダニ？】

なぜ判別が必要か、という両者で活動時期が異なるためです。

- ・マダニ属：4 月～7 月ごろに活動。ピークは 6－7 月で秋ごろになるとほとんど活動しない。
- ・チマダニ属：3 月～11 月まで活動。春と秋に 2 回活動ピークがある。このため従来のマダニ対策では不十分。

従来、道東にはマダニ属のみが生息しているとされていました。しかし近年、シカの増加と平均気温の上昇でマダニの生息数が増加、チマダニ属も日高山脈より西から侵入してきています。

【マダニの種類と生息密度調査】

調査はフランネル調査にて実施しました。フランネル生地の大きな布を引きずってマダニを採取します。30 分ほどおこないます。今回は 1 つの牧野を 4 人で実施しました。



↑フランネル生地



↑採取の様子

※フランネル生地：布が白いと見つけやすい&生地の毛羽立ちでマダニが採取されやすいそうです。

【結果】

60 匹のマダニが採取されました。

- ・ マダニ属：42（70%）
- ・ チマダニ属：18（30%）

【考察と対策】

チマダニも一定数発生していますが、大半はマダニ属が占めている状況でした。エランコさんからは重点的に対策を講じるのであれば、まずは**7 月末までの対応を優先すべき**、とのことでした。秋季の対策も継続して重要ですが、まずは現在のピークへの対応が肝要です。

数に関しては多めだとのことで、今後の対策で数が減るか観察したいと思います。ただ、天候によってもダニの採れ具合が違うとのことなので比較する際は注意が必要です。

また採取していてマダニが多かった場所はシカの通り道となる防風林付近でした。一方で牧野の真ん中ではほぼ採取されませんでした。



●チマダニ属が

- ・ **いる**：重点対策期間は **5－10 月**
- ・ **いない**：重点対策期間は 5－7 月

●フルメトリン製剤（バイチコールなど）の塗布頻度

マダニが高密度に生息、被害も大きい：**2 週間に 1 回推奨**

→対策により段々マダニの数が減ってきた：3－4 週間に 1 回でも可

また、シカが主にマダニを運んでくるため**環境対策**も重要となります。まずは駆虫薬！と考えがちですが、シカが入ってこないように対策されている場所ではマダニがほとんど採取されないそうです。具体的な対策としては、**放牧地を 2 重柵で囲う**、**放牧地周りの笹藪を刈り取る**ことです。とはいっても十分な環境対策は難しいので、殺ダニ剤も併用し、付着したダニを駆除しましょう。

【さいごに】

もしマダニの対策で悩んでいる方、フアンネル調査をやってみたい方がいればぜひご相談ください！